

やくわえ

第四十九号

就任挨拶

自己の啓発を意識して

東京都神道青年会会長 篠 直 嗣



謹んで御皇室の御慶事を祝ぎ、御皇室の弥栄と国家の隆昌、そして神宮御遷宮の無事齋行と各御社頭の隆盛を衷心よりお祈り申し上げます。

此度、二年間に亙りその素晴らしい英知と行動力を前面に押し出し、会発展の為に御尽力されました阿部前会長の後を受け、去る二

月開催の臨時総会に於いて、図らずも不肖私がかの重責を務めさせて頂く栄を賜りました。

伝統ある東京都神道青年会の執行部としては、固より浅学非才の身であり正にその器ではございませんが、微力ながらも、先輩・会員各位の御指導御協力を頂きつつ会の為にその職務を全う致したいと存じます。何卒宜しくお願い申し上げます。

さて、東京都神道青年会は申し上げるまでもなく、「会員相互の研鑽と親睦をはかり、神社神道の興隆を期する」を目的に、国家と斯

界のお役に立つべく研究と様々な事業を展開しておりますが、一般の世情を鑑みますと、正しく欧米風刺の氾濫により文化面精神面に於いて、皇国の特異性が失われつつあるやに思えてなりません。

私共は種々の伝統護持そして継承を根本の精神として掲げ、日々の神明奉仕に携わる者ですが、一日変化しつつある現社会事情は正の為に、強固な精神修養に努め行動言動とを見直し、過酷な未来社会に立ち向かうべく、各社各所において奮励努力致すべきであります。

私共が会として求めている確たる強固な団結を生み出すには、各位の研鑽と親睦を以て事に当たること。又、会員一人一人の抱える問題等を率直に打ち出し、議論し互いの糧に成すことではないでしょうか。そして、これらの体験の刺激により思考・意識の向上を図ることが、より力強い団結誕生に繋がるものと確信致します。このことは、私共社会における種々の問題解決方法の原点であり、組織を個人や各所に生かす基本であると考えます。つまり、青年会組織活動で学んだことは個々に、そし

て各社各所で充分活用できうるということなのです。青年会の活動とは、人との交流の中で、或ときは様々な議論を闘わせる場であり、また或ときは、行動を専らとし、感涙にむせぶ場であると信じます。仲間とは、同志とはその様なものではないでしょうか。

又、会員各位が各社での奉仕を通し、或いは各所での活動を通して体験された様々な事柄を一情報交換の場に本会を充てることも、意義ある組織の活用でありましょう。ともあれ、普段忘れがちな自己の鍛練・自己の啓発を常に意識しながら、必ずや斯界のお役に立つ様、又、個々の身になるべく組織活動完成に努めて参る所存です。平成六年は、本会創立四十五周年の区切りの年にあたります。それ故、特に会員各位と共に本会の伝統を噛み締めつつ、青年神職としての基本理念を踏まえた上で、神社を中心とした私共の明るい将来に向けて、諸事に当たろうではありませんか。 会員諸賢の深い御理解と積極的な事業活動参加と御協力を切にお願い致し、就任のご挨拶を申し上げます。

東京都神道青年会役員・部員・相談役

(順不同) ◎は部長

会長	篠 直嗣(板橋)	◎教化部	春日 規子(文京)
副会長	松本 仁(品川)	◎内海	松岡 里枝(港)
議長	齋藤明比古(杉並)	◎丸山	久嗣(北多摩)
監事	齋藤 博明(杉並)	◎神保	聡一(江東)
阿部 明徳(台東)	◎神名	恵一(江東)	香都夫(墨田)
大石 定道(品川)	◎瀬川	昌之(台東)	昌之(台東)
山口 直英(品川)	◎中島	敬史(板橋)	敬史(板橋)
神青協出向役員	◎小泉	裕(江東)	裕(江東)
小泉 勝俊(品川)	◎石川	正典(新宿)	正典(新宿)
特別委員会	◎山田	邦夫(港)	邦夫(港)
時局対策委員長	◎今井	達(墨田)	達(墨田)
奉仕企画委員長	◎唐松	孝文(足立)	孝文(足立)
◎唐松	◎唐松	宣彦(杉並)	宣彦(杉並)
◎唐松	◎唐松	文弘(杉並)	文弘(杉並)
◎唐松	◎唐松	一(品川)	一(品川)
◎唐松	◎唐松	寛之(江東)	寛之(江東)
◎唐松	◎唐松	知樹(文京)	知樹(文京)
◎唐松	◎唐松	寛(杉並)	寛(杉並)
◎唐松	◎唐松	渡辺 寛(杉並)	渡辺 寛(杉並)
◎唐松	◎唐松	佐々木 修(港)	佐々木 修(港)
◎唐松	◎唐松	祥彦(千代田)	祥彦(千代田)
◎唐松	◎唐松	敦憲(渋谷)	敦憲(渋谷)
◎唐松	◎唐松	水谷 敦憲(渋谷)	水谷 敦憲(渋谷)
◎唐松	◎唐松	奥野 雅司(練馬)	奥野 雅司(練馬)
◎唐松	◎唐松	真壁 恵龍(千代田)	真壁 恵龍(千代田)
◎唐松	◎唐松	朝日 修(北)	朝日 修(北)
◎唐松	◎唐松	鳥居 繁(千代田)	鳥居 繁(千代田)
◎唐松	◎唐松	大野 定好(杉並)	大野 定好(杉並)
◎唐松	◎唐松	寺井 種治(渋谷)	寺井 種治(渋谷)
◎唐松	◎唐松	宮本 正道(江東)	宮本 正道(江東)
◎唐松	◎唐松	服部 匡記(中央)	服部 匡記(中央)
◎唐松	◎唐松	中田 裕之(中野)	中田 裕之(中野)
◎唐松	◎唐松	三田 徳明(葛飾)	三田 徳明(葛飾)
◎唐松	◎唐松	金子 稔(葛飾)	金子 稔(葛飾)
◎唐松	◎唐松	◎富岡	茂永(江東)
◎唐松	◎唐松	◎神谷	裕昭(北多摩)
◎唐松	◎唐松	◎八木	光重(北)
◎唐松	◎唐松	◎内海	明紀(千代田)
◎唐松	◎唐松	◎堀江	久教(目黒)
◎唐松	◎唐松	◎鏡	智明(葛飾)
◎唐松	◎唐松	◎植田	浩敏(千代田)
◎唐松	◎唐松	◎松本	聖吾(千代田)
◎唐松	◎唐松	◎内野	成浩(江東)
◎唐松	◎唐松	◎白石	元(練馬)
◎唐松	◎唐松	◎丹羽	百年(杉並)
◎唐松	◎唐松	◎雨宮	盛克(江東)
◎唐松	◎唐松	◎日高	将光(中央)
◎唐松	◎唐松	◎広報部	章(中野)
◎唐松	◎唐松	◎小俣	大久保直倫(新宿)
◎唐松	◎唐松	◎品川	宗久(大田)
◎唐松	◎唐松	◎河野	通具(台東)
◎唐松	◎唐松	◎五十嵐	正明(杉並)
◎唐松	◎唐松	◎中神	孝之(杉並)
◎唐松	◎唐松	◎半田	裕明(中野)
◎唐松	◎唐松	◎田部	裕子(墨田)
◎唐松	◎唐松	◎相談役	戸部 廣之(千代田)
◎唐松	◎唐松	◎小泉	朋昭(板橋)
◎唐松	◎唐松	◎川合	玄紘(大田)
◎唐松	◎唐松	◎山内	温(豊島)
◎唐松	◎唐松	◎内田	英雄(練馬)
◎唐松	◎唐松	◎大村	忠(大田)
◎唐松	◎唐松	◎八木	敏夫(北)
◎唐松	◎唐松	◎竹内	一郎(足立)
◎唐松	◎唐松	◎村岡	賢治(新宿)
◎唐松	◎唐松	◎山崎	寛(千代田)
◎唐松	◎唐松	◎押見	守康(文京)
◎唐松	◎唐松	◎小俣	宗昭(杉並)
◎唐松	◎唐松	◎伊藤	孝夫(新宿)
◎唐松	◎唐松	◎香取	邦彦(江東)
◎唐松	◎唐松	◎中田	憲文(中野)
◎唐松	◎唐松	◎小野	貴嗣(台東)
◎唐松	◎唐松	◎北川	憲史(大田)
◎唐松	◎唐松	◎長谷川	康夫(世田谷)
◎唐松	◎唐松	◎鈴木	昭樹(中央)
◎唐松	◎唐松	◎能国坊	明彦(荒川)
◎唐松	◎唐松	◎村瀬	章一(荒川)

平成五年度 定時総会開催

本会の定時総会が去る四月十六日東京都神社庁に於いて開催され米賓、諸先輩を始め会員ら四十九名が出席した。

総会には先ず小泉副会長の開会の辞に続いて、神殿拝礼、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和、阿部会長より二年間任期を締括る挨拶があり平成四年度事業報告、同決算報告、監査報告が行われ一同異議無く満場一致で承認された。

副庁長、出席された神道青年全国協議会を代表して西高辻会長より祝辞を戴き美しき山河合唱、万歳三唱の後、齋藤新副会長の閉会の辞で盛大かつ和やかなうちに総会を無事終了、篠新会長を始め、新執行部が二年間の新しいスタートを切った。

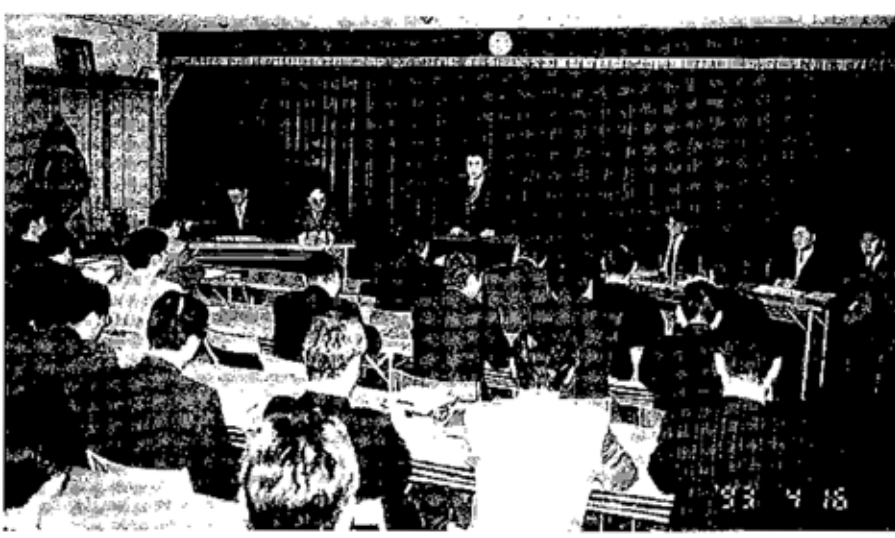
(齋藤博明)

次いで今期役員に代わり、篠新会長が「神宮御遷宮、皇太子殿下御成婚という吉事が重なった良き年ではあるが、神社界を取巻く環境には憂うべき事柄も多い。この混乱した時勢に当り、我々青年神職は青年会活動を通じ大いに自己を啓発し斯界興隆のため努力しよう」と力強く挨拶された。

引続き今期活動方針案、同事業計画案、予算案の審議へと移り満場一致にて執行部案が承認された。

更に篠会長より本会会則一部修正の緊急提案があり、活発な意見交換の後、承認された。

続いて、神社庁を代表して宮西



平成五年度事業計画

教養部

- 一、教養講座(四回)
- 二、神道行法錬成研修会 七月十二、十三日
- 三、大寒禊錬成会(明治神宮)
- 四、雅楽研修会 八月十八、十九日
- 五、教養古典講座(毎月一回)
- 六、教養部通信の発行

教化部

- 一、青少年への教化活動
- 二、東京都氏子青年協議会の事業協力
- 三、社頭教化活動(ポスター・看板等制作)

渉外部

- 一、諸団体との連絡・交流の緊密、強化
- 二、他団体主催研修会・行事への積極的な参加
- 三、他団体との関連した活動計画の立案・実行
- 四、会員に対する情報提供の充実

広報部

- 一、東京都神道青年会会員名簿の作製・発行
- 二、やくわえ第四十九号・第五十号の発行
- 三、その他号外の発行

事業部

- 一、新旧役員会員懇親旅行 八月十日
- 二、家族懇親会 十月中旬
- 三、健康診断 十一月下旬
- 四、忘年旅行 十一月下旬
- 五、新年会余興 一月十三日

時局対策特別委員会

- 一、神宮式年遷宮奉祝事業
- 二、皇室・行政・各方面等最新情報収集並
対策活動

奉仕企画特別委員会

- 一、皇太子殿下御成婚奉祝事業
- 二、罹災神社御復興支援事業(田端八幡神社)

役員紹介

会長 篠直嗣

板橋区・氷川神社禰宜
昭和三十二年一月五日生



会計・渉外部長・総務部長・神道青年全国協議会副会長・神青協選宮委員・同指名理事・神青協の将来を考える委員会委員長等を歴任
東京都青年会のみならず全国にまたがり、髪型と同じ不動の精神で会員の先頭に立つ、襪の横綱。

副会長 松本仁

品川区・旗岡八幡神社禰宜
昭和三十年三月二十九日生



前期、教養部長・神道青年全国協議会会長指名理事を歴任。午後六時放送のNHKアナ池上彰氏に瓜二つとの声あり。興味のある方は是非、委員会に出席されたし。物静かな外見と笑顔がチャームポイント。今期は東京都神道青年会創立四十五周年記念事業実行委員会の実行委員長も兼任する。

副会長 斎藤明比古

杉並区・下高井戸八幡神社禰宜
昭和三十四年九月五日生



元庶務・神道青年全国協議会の将来を考える委員会委員を歴任。スキューバダイビングが趣味の、当会一番の日焼け男。学生時代、空手で鍛えた筋骨隆々の肉体を駆使し、力強く会を導いて行く。

監事 阿部明德

台東区・下谷神社宮司
昭和二十九年四月二十六日生



会計・広報部長・教養部長・会長を歴任。秀でた行動力と、数々のアイデアで、前会長時には御遷宮啓蒙年賀葉書の頒布、罹災神社の御復興支援活動等、数々の事業にその手腕を発揮する。また、時局問題に強い興味を持ち、積極的に情報を収集し、会員の時局問題への関心を高めた。神青協においては、沖縄本土復帰二十周年記念事業を担当し、旅先案内人を努める。東西南北を飛び回る超多忙な二年間を終え、やっと隠居生活に……と安心したのも束の間、今期全国の副会長に就任。体がいくつあっても足りない毎日を送る。

監事 大石定道

品川区・戸越八幡神社宮司
昭和二十八年七月二十二日生



事業部長・総務部長・副会長を歴任。穏やかな語り口と、温厚な人柄で皆を引き付ける。神楽殿修復・神興新調・社務所新築と次々に大事業を成し遂げた、そのバイタリティーは特筆もの。そのせいか、近頃頭に白い物が目立つ。

監事 山口直英

品川区・氷川神社禰宜
昭和二十七年五月二十日生



事業部長・総務部長・副会長・議長を歴任。元歌手？ジャンルを問わず歌いまくるその爽やかな歌声は、聞く者皆を引き付ける。朗らかな性格の持ち主で、会の雰囲気をも和ませる。白髪は無いが……。

議長 齋藤 博明

杉並区・神明宮禰宜

昭和三十一年十月六日生



前期事業部長。学生時代はテニス、スキー。今はゴルフにプロなみの腕前を誇るスポーツマン。その柔軟な運動性能を生かしたりズミカルな議事進行には、議長としての天性の才能を感じる。

時局対策特別委員会委員長

今井 達

墨田区・白鬚神社禰宜

昭和三十一年十一月二十二日生



教化部長・渉外部長を歴任。頭の回転の速さは会一番。脱線した議事も、独特なジョークでさらりと軌道修正。現在神社新報社編集長。最新の情報なら何でもお任せ。

神青協出向役員

小泉 勝俊

品川区・品川神社禰宜

昭和三十年八月十七日生



事業部長・副会長を歴任。周知のとおり天真爛漫な明るさと、さばけた言動が売物。その屈託のない笑顔に救われた会員は数知れず。

奉仕企画特別委員会委員長

唐松 孝文

足立区・稲荷神社禰宜

昭和三十四年九月一日生



元庶務。ふくよかな外見から滲み出る温厚篤実な性格の持ち主で、会議も和やかに進む。几帳面な仕事ぶりには、会員一同脱帽。

総務部長 本橋 宣彦

杉並区・馬橋稲荷神社禰宜

昭和三十五年六月十七日生



前期庶務としての抜群の活躍により今期は総務に抜擢。また神道行法錬成研修会の裏行で、参加十回の楯を取得した努力家でもある。

庶務 小俣 文弘

杉並区・荻窪八幡神社禰宜

昭和二十八年二月二十日生



前広報部長。前号「やくわえ」掲載の「リヤカーの作り方」は好評で注文が殺到とか。頼まれればいやとはいえない性格で、よく学びよく遊ぶ、会にはなくてはならない人材。

庶務 渡辺 寛

杉並区・熊野神社禰宜

昭和二十九年五月三日生



質実剛健、早寝早起きがモットー。多弁ではないが、その言は正鵠を射る。

庶務 森田 一

品川区・八幡神社禰宜

昭和三十七年一月三日生



物静かな性格と甘いマスクで女性会員を魅了する。酒と文学を愛する詩人で、今期の活躍が楽しみ。

庶務 岩崎 知樹

文京区・桜木神社禰宜

昭和三十九年一月八日生



好奇心旺盛で何事にも積極的に取り組む姿は称賛に値する。現在木彫りの神楽面を制作中。神青会の将来を担う若手期待の星。

庶務 田中 寛之

江東区・天祖神社禰宜
昭和三十九年十二月十六日生



昨年子供が生まれ、唯でさえ細い目をより一層細くし、育児に励んでいる江東区のプリンス。律義さとまめな行動が定評で、これからの活躍が期待される。

教養部長 清水 祥彦

千代田区・神田神社禰宜
昭和三十五年六月二十八日生



一見、城みちるか、神田正輝かと思間違える程の美男子ではあるがその実体は、学生時代自ら進んで出雲大社大祓百卷の荒行を会得した程の剛の者である。教養部の新企画として古典講座を開催するなど、更なる活躍が期待されている。

教化部長 内海 寿之

江東区・東大島神社禰宜
昭和三十五年十二月十四日生



前期会計。真夏にぬいぐるみの中に一時間以上入っていた忍耐強さと、与えられた仕事は病に伏しても遂行する誠実さに定評がある。阿部明德神青協副会長に匹敵するツアーコンダクターの資質の開花が楽しみ。

渉外部長 富岡 茂永
江東区・富岡八幡宮権宮司
昭和三十六年二月七日生



以前は若手を引き連れ夜の帝王として会員の懇親に君臨。しかし、最近の落ち着きぶりは少し残念。色々な組織で重要な役職をこなしてきた経験を生かし、当会発展のため益々の活躍を期待する。

事業部長 石倉 義康

足立区・鷺神社禰宜
昭和三十五年四月二十日生



只今、心中「夏」真つ盛り。神青会でも懸案であった待望の「美しい奥方を迎え、お家大事の愛妻家ぶりを発揮。

会計 佐々木 修
港区・桜田神社
昭和三十九年六月五日生



六本木の貴公子との異名をとったが、今年六月敢えなく結婚。その柔和な外見とは裏腹な堅い気質で財布の紐を握る。

広報部長 小俣 章

中野区・沼袋氷川神社禰宜
昭和三十五年十月二十日生



僅か四年の間に二度も御社殿の御造営(全額募金)という偉業を成し遂げた、貴重な経験の持ち主。神青会では、読み易く楽しい「やくわえ」の発行に、部員共々頭を悩ます。

平成五年度新年互礼会

去る、一月十三日恒例の新年互礼会が、神田神社の明神会館に於いて開催され、来賓・先輩を含む九十六名が参加した。

会に先立ち、今話題のマッキンゼー日本支社長・平成維新の会代表の大前研一氏の「大前研一新春放談、日本を生活者主権の国にしよう」と題した記念講演が行われ他団体七十名の聴講を含め百五十余名が拝聴した。

会はず神田神社に正式参拝し、

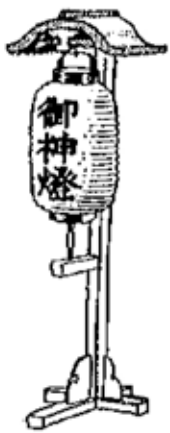


その後、篠総務部長の司会の下、小泉副会長の開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱と続き、阿部会長の挨拶、来賓の紹介、猿渡盛文庁長、斎藤英雄先輩と挨拶が続いた。各氏はそれぞれに神宮式年遷宮と皇太子殿下御成婚のおめでたい年を寿いだ。

次の懇親会では、大鳥居信史先輩が乾杯の音頭をとり、町田市熊野神社宮司池田様のお孫さんである川島美穂さんのエレクトーン演奏が流れる中、欲談へと進んだ。また、女性会員では田部裕子さんと春日規子さんが参加し、華やか

さを増した。会の半ばの事業部による恒例の福引は、今年も阿部会長対全員のジャンケンによる選抜戦が行われ来賓の教育関係神職協議会唐松豪夫会長と斎藤英雄先輩に景品が当たり、おおいに盛り上がった。また、上位五名による決勝戦の結果、一等は大宮八幡宮の丹羽君に豪華商品券が当たり「給料の半分をかせいでしまった。」といささか興奮気味であった。彼は去年のジャンケン大会でいいところまでいきながら景品を逃していたことから、密かにジャンケンの研究をしていたようであった。和やかな楽しい会も終わりに近づき全員輪になって、「うるわしき山河」を合唱した後、大石副会長の閉会の辞をもって幕を閉じた。帰りに、神田明神名物・酒まんじゅうのお土産が全員に配られた。景品が当たらなかった者にとってお土産がとても嬉しく感じたのは私だけであろうか。

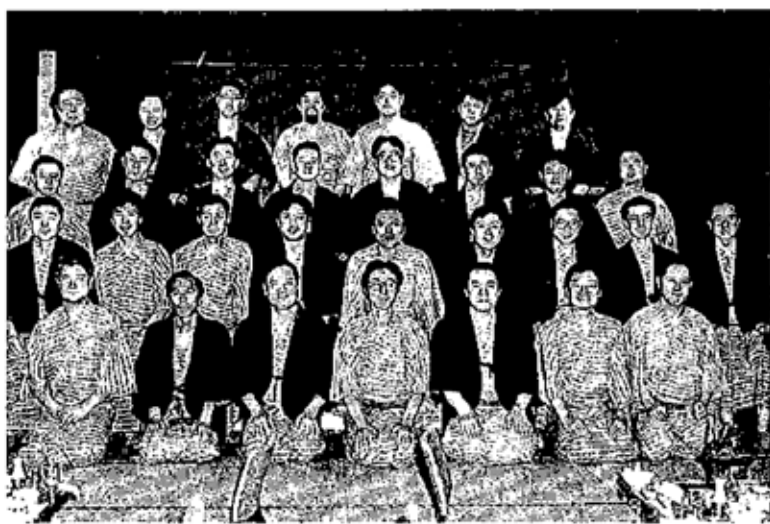
(滝 雅人)



○新旧役員会員懇親会

四月十六日・十七日石和「トールホテル石和」に於いて、阿部前会長、篠新会長のもと新旧役員交代に伴う懇親会が、三十四名の参加を得て行なわれた。

当日、竹内一郎先輩、小野貴嗣先輩、戸田和彦先輩の出席を賜わり、役員・会員に二年間の労をねぎらう挨拶の後、和気あいあいの裡に楽しい一時を過ごした。



平成四年度 神道青年全国協議会

中央研修会

去る三月四日より同五日にかけて、平成四年度、神道青年全国協議会中央研修会（同会主催、共催 神社本庁研修所）が神青協近畿地区主管により、兵庫県神戸市のホテルオークラ神戸にて盛大に行なわれた。

今年度はメインテーマを「好きやねん、神さん・響け言葉のオーケストラ」とし、モデレーターに編集者としての活躍で知られる松岡正剛氏を迎え、ライブサイエントイストのライアル・ワトソン博士による基調講演を幕開けとして講演された。

プログラムは四日午後一時半より九十分の基調講演、その後異なるテーマを主題とする三つの分科会に分かれて、ゲスト講師による対談会及び討論を八十分間に亘り行なわれ、続くシンポジウムで全体としての総括を行なうというスケジュールで進化した。

分けてもライアル・ワトソン氏による講演は、イヤホンを通じた同時通訳によって行なわれるとい

う前例のない新方式が採用され、受講者一同にたいへん好評をもって迎えられた。

『生命潮流』、『スーパーネイチユア』等の著書に良く表わされた通りの、氏の現代化学のルネッサンスを思わせる広い視野と広汎なフィールドワークに裏打ちされた話は、約四百名からなる全国から集まった会員を魅了して止まないものであった。

以前より日本、特に神道に造詣の深かった氏は「なぜ私は神道に惹かれたか」をテーマとして揚げ、神社と日本の自然、風土との関わりについて実践的ライブサイエントイストとしての独自の視点により語られた。

中でもその後半、まとめの部分で語られた「神職は教義の伝道者とはならず、自然、風土との直接的体験をこそ大切にするべき」との言葉は印象的で、後の分科会に於いて大いに基調テーマとなり、様々な意見が交わされた。

分科会ゲスト講師としては、第一分科会に東洋美術研究で知られるM O A美術館専門委員も務めておられる衛藤駿氏、神道研究者で多彩なフィールドを持つ武蔵丘短期

大学助教授の鎌田東二氏。

第二分科会に日本近世文化研究の権威で江戸文化に詳しい法政大学教授の田中優子氏、また神道の宗教学、儀礼論の視点からの研究で名高い京都大学教授の蘭田稔氏。

第三分科会には、建築家として活躍する中に、神宮等の神社建築研究をライブワークとされている毛綱毅曠氏、神戸女子大学助教授で傀儡子（くぐつし）研究で知られる鈴鹿千代乃氏が迎えられた。各分科会の概要は、以下の通りである。

（奥野雅司）

第一分科会では、衛藤駿先生と鎌田東二先生によって「神はどのように表現されてきたか」と題して行なわれた。この問題は、言葉として表現しにくい分野であるので、主にスライドの映像を通して、また古代の石笛の音を通して、五感全体に訴える分科会であった。

衛藤先生は、神に対する祈りの形態、行為に注目し、自然石、岩、ガンジス川の水、母なる大地、白鳩、蓮の花などの聖なる物と、それを感じる人の感性との関係を中心に問題提起された。それに対し鎌田先生は、祈りの

場所、空間に着目し、どの様なところに神が出現し神が宿るかという問題を、バリ島の聖なる山ガジユマルの太木、男性と女性を象徴する神秘的な地形、沖繩のうたき森などを例にとり、聖域とされる場所を紹介された。また縄文笛を演奏され、会場全体に霊的な空気が満ち溢れた。

両先生共に、人は古代より自然を知る深い洞察力、直感力を持ち続けその中に「聖」なるものを感じ、祈りへと通じそれを伝承してきたという内容であった。

（滝 雅人）





第二分科会では、藪田稔先生と田中優子先生によって「外から見た神道・内から見た神道」と題して行なわれた。主にまつりや儀礼を通して神社が社会に果たしてきた役割、自然環境保全という見地からの境内空間のありかた。また神道という宗教としてやがて来る二十一世紀に向けて何が出来るのか等について討論が行なわれた。藪田先生は神社宮司という神職の立場から、田中先生は崇敬者、氏子、一歴史学者といういわば外から神道を見つめる立場から論を進められ、時に斬新な意見をも飛び出し、神道研究の新たな方向が示

された。

第三分科会では、毛綱毅曠先生と鈴鹿千代乃先生により「場所と記憶の中にひそむ神々」と題して神社を場としてとらえた空間論、時間論が主に交わされた。特に鈴鹿先生は、傀儡舞などの研究を通して日本民族芸能の源流についての考察を語られたのが強く印象に残った。

これに対し毛綱先生は古代出雲大社復元図を制作された経験等を通じ、空間としての神社の宇宙観自然観を検証された。

分科会後の総括、翌五日のフォーラムに於いては、これら討論をふまえた活発な意見交換が行なわれ、最後に「神戸宣言」が宣せられ、「社」と「まつり」の重要性が確認された。四日夜の懇親会では、会員相互に旧交を深めていた。

今回の研修は、多彩な講師陣と同時通訳による講演等新しい試みも多く、また規模も大きな研修であり、参加者一同大いに啓発された二日間であった。

平成五年度中央研修会は、神宮のお膝元、伊勢の地にて開催される。

(奥野雅司)

大寒禊について

新春の行事も一息ついた一月二十日(水)の大寒に神道行法錬成会が明治神宮禊場にて実施された。

阿部会長以下三十四名の会員が午前八時に明治神宮会館に集合し篠直嗣助彦先生による「神道行法について」の講義が行われた後、明治神宮禊場正座室での振魂、大祓詞奏上に始まり、中庭での鳥船等により、心気を振り起こし、明治神宮の森の生氣と心気を合一させ、我々の潜在魂を復活させ、自己の体内を清浄にした後に、禊場に臨み身滌(しんでき)行事に取り組んだ。



今年は、気温が上がり、水温との差が大きいせいか、去年より水が冷たく感じられ肌を切るようであったが、会員諸兄の熱気により最後の手締めを行う時には、森の木漏れ日が禊場に注ぎ込み、神の御力に見守られて、禊錬成を無事に終えることのできた喜びに満ち溢れる会員諸兄であった。

禊終了後は、明治神宮に正式参拝を行い、社務所において甘酒の御馳走に預かる事が出来た。この厳しさの中にも和んだ雰囲気の中で錬成会は進められたのも明治神宮の方々のおかげであると深く感謝しています。来年もまた大寒禊を行う時には、宜しくお願い致します。

(渡辺 寛)

平成四年度臨時總會開催

平成四年度の臨時總會が二月九日、東京都神社庁に於いて開催され来賓、諸先輩をはじめ会員の出席者四十余名により開催された。

議事に先立ち午後二時より小林一郎先生（元神道青年全国協議会会長・埼玉県久伊豆神社禰宜）による講演会が催された。

この後、臨時總會に移り篠直嗣総務部長の司会により小泉勝俊副会長が開会の辞、神殿拝礼、小俣文弘報部長の先導による国歌斉唱、佐々木修委員の先導による敬神生活の綱領唱和、続いて阿部明德会長が、任期も残り少なくなりましたが、任期中は副会長をはじめ役員、会員の協力によりなごやかに活動が出来ましたことを感謝すると共に、今後の神青会の次期会長選出、役員承認について慎重審議していただき、よりよい神年会に活動が出来ようようお願いする旨挨拶があった。

来賓紹介の後、山口直英議長の進行により議事に移り、次期会長選出について阿部会長より経過説明があり、篠総務部長が推薦され満場一致で承認された。

次いで篠次期会長より、次期役員

の発表があり満場一致の拍手で承認された。議事は滞り無く終了し、篠次期会長が微力ではあるが皆様方のご協力を得て神青会の活動が達成出来ることを願いたい旨の挨拶があり、次いで来賓を代表して新倉重行神社庁参事が挨拶に立たれ、神社庁と神青会の強い結びつきが新しい会長のもとますます結束して神社界のため活動していただきたいと話された。

石倉義康庶務の先導により、「美わしき山河」を合唱し、山田将夫神社庁監事の先導により、万歳三唱がなされ、小泉副会長の閉会の辞により臨時總會が終了した。

小憩の後、直会が行なわれ、春田知男神社庁理事の乾杯の音頭により始まり歓談の後、山内温相談役の手締により散会した。

（椎名香都夫）

過激派ゲリラで被災の

田端八幡神社

五月十五日午後七時より北区田端鎮座、田端八幡神社（柳原正賢宮司）の遷座祭が厳かに斎行されました。

当神社は、去る平成二年十一月十二日未明、中核派と称する過激派集団からなるゲリラ放火により不幸にも御社殿が罹災されたお社で、以来宮司柳原様を中心に、田端八幡神社社殿復興奉賛会を結成し、二年半におよぶ奉賛活動が実を結びここに立派な御社殿が竣工されました。

奉仕企画特別委員会の唐松孝文委員長が中心となり、同神社遷座祭に御奉仕させて戴き、本会と致しましては、白鬚神社・沼袋氷川神社・神明神社に続く四度目の御奉仕でありました。



新入会員

千代田区	鳥居	中央区	高内	文京区	三島	台東区	橋爪	港区	大井	文京区	日高	長谷	関口	高橋	神田	橋本	野口	野村	田村	浜村	加藤	宮本	山本	八木	金子	小松	西野	北多摩											
	繁		栄		安		実		晋		将	健	徳	篤	信	和	正	隆	也	一	史	徳	康	徳	次	郎	光	時	吾	晋	実	安	尚	樹	尚	安	詣	栄	繁

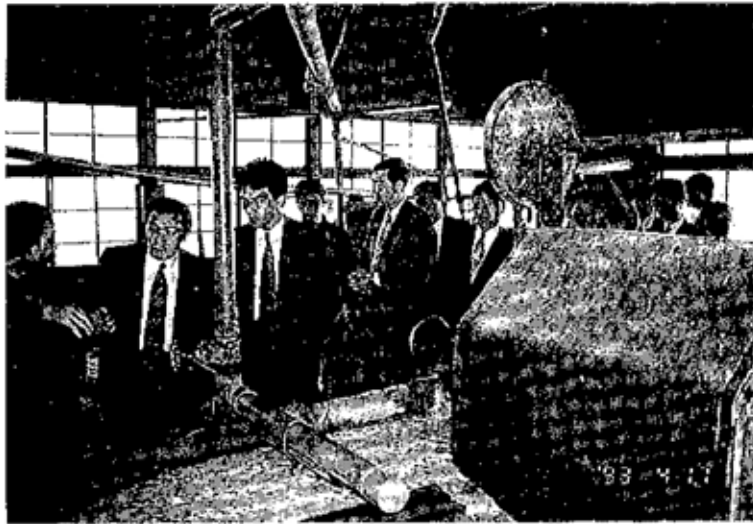
平成五年度
第一回教養講座

「丸井紙店」見学会

— 神符守札奉製を考える

四月十七日、山梨県市川大門にある丸井紙店にて第一回教養講座が開催されました。当日は篠会長他十三名が参加、同社の奉製工場を見学し最近の授与品の傾向などのお話しを伺いました。

工場では神札の原料となる和紙を漉く工程から、裁断、印刷、さらには羽織や水引を付け、箱に納



めるまでの数多くの工程を見学し、百数十名で神札を大量に奉製している状況は誠に壮観でした。

すでに来年正月の神符奉製が進んでおり、注連縄を張り巡らした奉製場は大変活気に溢れていました。

神札の奉製には思いのほか、手作業が多く、一体一心をこめて奉製されていることが身にしみて実感できました。

この後事務所では種々の説明を受け、和紙を漉くにはきれいな水が絶対に必要で、山紫水明の甲府盆

地にして、はじめてこの奉製ができる事を教えられ、自然の恵への感謝を痛感し、有意義に見学を終りました。

(清水祥彦)

*丸井紙店見学参加者名(順不同)
篠直嗣、松本仁、阿部明徳、山口直英、本橋宣彦、小俣文弘、森田一、内海寿之、丸山聡一、小俣章、奥野雅司、石川正典、瀬織誠、清水祥彦
(以上十四名)

平成五年度

第一回古典講座

『古語拾遺』を読む

今年度より初めて開講しました本講座は、毎月一回古典を詳しく読んでいくという、大変に地味で根気を要する講座となりますが、従来迄の教養講座形式では、なかなかできなかった事に挑戦し、青年神職の旺盛なる知識欲を刺激する有意義な講座にしようと企画されたものです。

四月二十三日、第一回目の講座が國學院大学の藤森馨先生を講師

に招き、記紀と並び神話祭祀の研究に大変重要な『古語拾遺』をテキストに選び読み始めました。

新進気鋭の若手研究者藤森先生は堅い古典の注釈だけでなく、幅広い研究を興味深く聞かせて下さり古典が苦手な人でも楽しく聴講できる内容になっています。

五月より毎月第一金曜日に神田神社で定期的開催し、各回ごとに講義ノートや復習の時間を用意してあります。途中からでも気軽に受講できますので奮ってご参加下さい。

(清水祥彦)

四月二十三日

於・神田神社

*古典講座第一回参加者(順不同)
篠直嗣、本橋宣彦、高島邦夫、森田一、矢島早苗、水谷敦憲、奥野雅司、服部匡記、宮本正道、金子稔、清水祥彦
(以上十一名)

五月七日

於・神田神社

*古典講座第二回参加者(順不同)
高島邦夫、今井達、森田一、矢島早苗、富岡茂永、堀江久教、丸山聡一、内海寿之、柴山尚子、宮本正道、清水祥彦
(以上十一名)

お知らせ

○古典の世界へ ようこそ!!
教養部開催

日時 六月四日 七月二日
 八月六日 九月三日
 十月一日 十一月五日
 十二月三日
 午後六時～午後八時まで
 毎月第一金曜日開催

場所 神田神社社務所
 (JR御茶ノ水駅下車歩五分)
 会費 毎回一千元

講師 國學院大學講師
 藤森馨(旧姓小松)先生

四月より東京都神道青年会教養部の新企画事業として、古典講座を毎月定期的開催致します。

「古典を修め、教養を深める」とは、本庁憲章にもうたわれているとおり神職として大切な素養の一つです。

従来の教養講座では、なかなかできなかった継続して一つのテキストを読んでいく作業は、我々青年神職の将来に必ず益するものがあると信じます。

根気と努力が要求されますが、古典を少しでも楽しく理解できるような講座にするため、皆様の積極的な参加をお待ちしております。

今回のテキストは、齋部広成の『古語拾遺』を選びました。『古語拾遺』は、齋部氏の古伝承をまとめたもので、記紀と並び、神話、祭祀の研究にとって非常に重要な古典ですので乞ご期待!

尚、古典を読まされて恥をかくのではないかと、心配されている方も多いと思いますが、決してそのような心配は要りません。本講座はゼミ形式ではなく、講義の形式で行なっております。

とにかく「百聞は一見に如かず」一度講座に参加してみてください。

*毎回の参加が無理な方には、講義内容を録音したテープの貸出を致しております。

*参加希望者は準備の都合上、恐れ入りますが事前に必ずご連絡下さい。

*担当 教養部長 清水祥彦
 神田神社
 電話 三二五四一〇七五三

○神道行法錬成研修会開催

日時 七月十二日(月) 正午～
 十三日(火) 午後一時頃

場所 青梅市御嶽山
 麻知屋

会費 六千元(学生は五千元)

尚、参加者には東京都神社庁研修所より修了書が授与されます。

○雅楽研修会開催

日時 八月十八日(水)～
 十九日(木) 二日間の予定

場所 東京都神社庁

尚、参加者には東京都神社庁研修所より修了書が授与されます。

○おとうさん ありがとう

家族懇親会 八月十日(火)

納涼船で舟遊びを企画中です。今期はすばらしいアトラクションを企画。おとうさんの株が上がること請合い!

○あなたは健康に

健康診断 自信がありますか?
 健康診断 十月上旬予定

○事業部からのお願い

事業部では、今期の事業として各区ごとの神社巡りやイラストマップ、半日水上バスツアー等を計画、実施致したいと思っております。皆様の右計画についての御意見、御感想をお聞かせ下さい。

事業部長 石倉義康
 電話 三八八三一六一四〇



第六十一回 神宮式年遷宮
国民総奉賛・総参宮を

平成五年六月一日
 東京都神道青年会
 東京都港区元赤坂二二二一三
 東京都神社庁内
 電話 三四〇四一六五二五(代)